

←長野県では…

飯田市上郷地区で計画されている
リニア長野県駅 その規模は…

想定 1 日乗降客数 6,800 人
面積 6.5ha 500 台の大駐車場

新たな伊那谷の拠点として…
交流センター広場・商業施設
予算総額 91 億円
その陰で…

この地域の地権者約 100 戸
(個人と事業者)が立ち退き対象。
先祖代々から受け継がれてきた
住み慣れた家や生業の場である農地、
地域のつながりを破壊する立ち退きには、
複数の人が移転を拒否している。



9月11日 飯田市が

駅周辺整備基本設計を発表

発表によると、駅のシンボルとして新たに検討してきた木製大屋根(約1.6畝のうち、2027年のリニア開通までに整備するのは1.1畝と想定。これまで鉄骨で支える構造を計画していたが、支柱も木材に変更した。

駐車場は立体駐車場を平面に見直し、従来の750台から500台に削減した。

この他、2017年6月に決定した基本計画通り、地元住民向けの「コミュニティ広場」、「魅力発信施設」などを設ける。施設の維持管理費は年間6500万円と見込んだ。

周辺整備を巡っては、市はJR飯田線への乗り換え新駅を検討。ただ今回の事業費に乗り換え新駅にかかる費用は含まれておらず、多額の投資が見込まれている。

※9月12日信濃毎日新聞より※

中央アルプストンネルの排出土はどこへ？

△寝耳に水？三遠南信道を通ってトンネル残土は天竜川を渡る？▽

今年8月、飯田市龍江地区でJR東海による発生土置き場候補地計画の説明会が開かれた。

説明によると、リニア中央アルプストンネル松川工区(4.9km)の残土約90万立方メートルのうち40万立方メートルを、飯田市龍江番入寺地籍の谷に搬入する。

搬入する谷は清水川水系の中流部。高さ35m、面積約4.5ha。計画地は上流130haの流域面積の降雨が集まるいわば谷というより清水川の中流域。川埋め盛土。晴天が続いても計画地には大量の地下水が流れている。

なぜ？30年に一度の降雨強度で設計

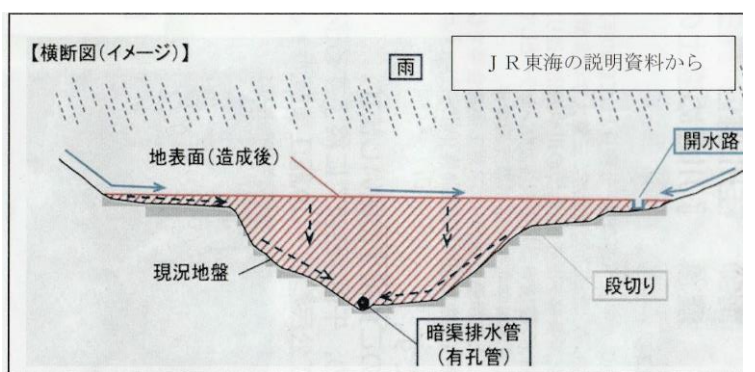
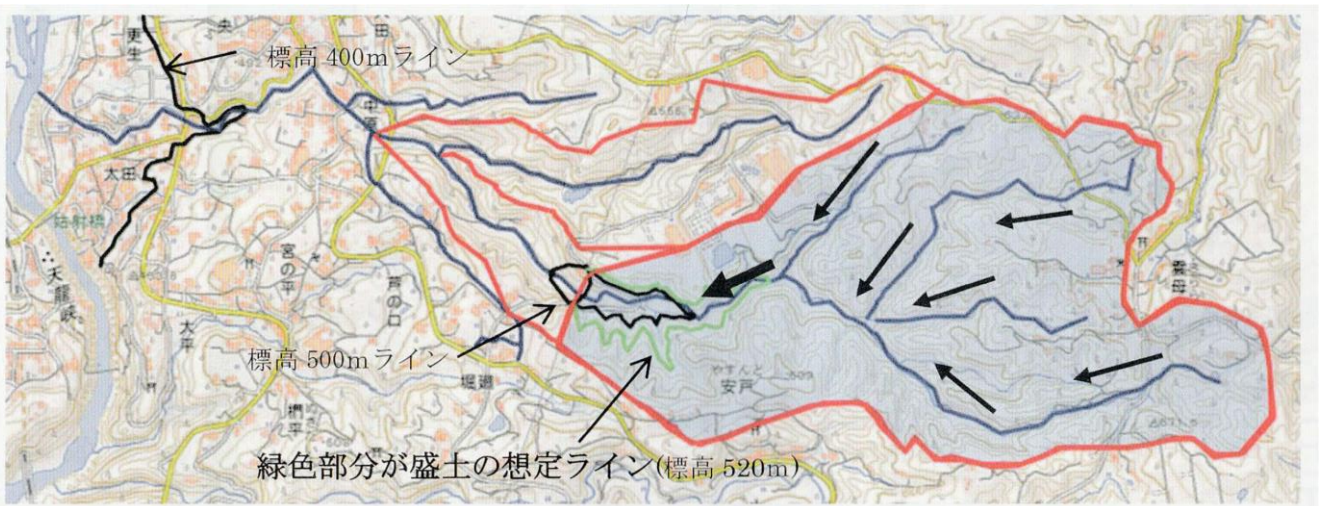
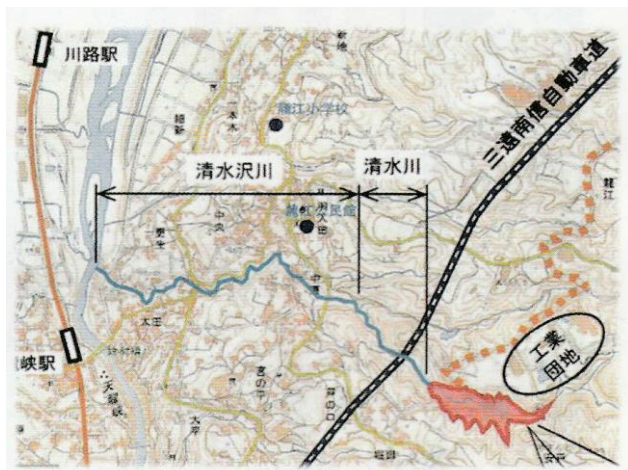
JRは他の地区での谷埋め盛土では100年に一度の確率で起こる強雨に対し

て安全と、水路の設計説明をしています。なぜか龍江では30年に一度の雨で計算して設計している。

計画では、延べ十万台のダンプが三遠南信道路を走り来する計算になる。

清水川の下流は清水沢川と名称を変え、天竜峡駅北、名勝天竜峡姑射橋のすぐ上流から天竜川に注ぎ込む。

△龍江の盛土を考える会資料より▽



湧水の処理・工事中、あるいは竣工後の騒音・振動対策や生活道路の確保、大規模な造成工事における地域の防災なども住民の心配するところ。長野県駅建設も含め、巨額の費用を要するリニア中央新幹線事業への投資が、市民生活にどのような寄せられることのないように、との声も聞かれます。